

平成21年度事務事業評価表	担当	上下水道部 下水道浄化センター	内線等	8009
---------------	----	-----------------	-----	------

事務事業名	中水道（下水道再生水）利用事業			
総合計画、市長マニフェストでの位置付け		(該当しない事業については記入不要です。)		
基本目標	2. 快適でやすらぎのあるまちづくり	施策名	下水道	
基本目標、施策に対する貢献度	3点 施策の達成に非常に効果があった			
市長マニフェスト	生活排水対策・快適な都市環境づくりのまちづくり			
市長マニフェストの執行状況	5点 概ね達成できた			

事務事業の内容

対象(受益者)	下水道浄化センター周辺公共施設に対して
手 段	水洗便所用水、散水用水及び修景用水等の雑用水としての給水設備を整備して
成果、目標	下水道資源である再生水の有効利用を図る。

成果指標

成果指標名	再生水有効利用率	収益率	
成果指標の説明	(再生水有効利用量/再生水処理能力) × 100	(再生水利用料金/事業費) × 100	
指標の推移	平成20年度決算(実績)	平成21年度決算(実績)	平成22年度予算(計画)
成果指標	36.86%	38.74%	38.36%
成果指標	62.81%	52.19%	

事業の概要

項 目	平成20年度実績	平成21年度実績	平成22年度計画
再生水有効利用量	47,087 m ³ /年	49,488 m ³ /年	49,000 m ³ /年
再生水有料利用量	22,514 m ³ /年	21,784 m ³ /年	22,000 m ³ /年
再生水利用料金	2,701,680円/年	2,614,080円/年	2,640,000円/年
再生水処理能力	127,750 m ³ /年	127,750 m ³ /年	127,750 m ³ /年

事業にかかる人工

(単位：人)

H20 人工計	0.20人	次長 課長級	0.10人	補佐級	0.05人	係長級		一般職	0.05人	非常勤		再任用	
H21 人工計	0.15人	次長 課長級	0.10人	補佐級	0.05人	係長級		一般職		非常勤		再任用	

事業費 決算書、予算書に記載のある事業は決算書等の事業費を記載してください。(単位：千円)

項 目		平成20年度実績	平成21年度実績	平成22年度計画
人件費 を含む 事業費	事業費	2,552	3,569	2,000
	人件費	1,750	1,440	
	合計	4,302	5,009	
財源 内訳	特定財源	2,702	2,614	
	一般財源	1,600	2,395	

事業の仕分け

A 現行どおり市が実施	説明	利用料金の徴収は、現行どおり下水道課庶務担当で行うが、施設の維持 運転管理は平成22年度から包括管理するため、民間業者に委託する。
-------------	----	----------------------------------------------------------------------

必要性

必要性	A 市が実施すべき
-----	-----------

効率性

効率性	B 投入された予算、人工にほぼ見合った成果をあげている
-----	-----------------------------

総合評価

総合評価	B 事業の進め方に改善の余地がある
------	-------------------

改善点、問題点等

過去の改善点	平成元年4月、競艇場の水洗トイレに供給開始。平成6年4月、オゾン処理施設を導入し、市民会館、博物館、保健所、保健医療センター、三河港務所、浜町テニスコート、浄化センターの水洗トイレに供給開始し、現在は8箇所の公共施設で利用。現在に至る。
現在の課題、 問題点	国の「下水処理水循環利用モデル事業」として国庫補助金を受け、平成元年4月、中水道施設を供給開始した。国の補助を受けたことから30年間の施設維持が義務づけられているが、競艇場の需要が減っており、今後も需要増が見込まれないこと 施設の老朽化が進み、各種設備・機器の更新も迫っており、これらに対処するには高額な費用がかかること等の理由から「30年の期限が過ぎる平成31年には中水道設備の廃止」ということも検討していかねばならない。
今後の改善計 画	再生水の利用については、競艇場の利用率が84.1%と大部分を占めており、今後、競艇場が施設改善等により中水の利用を中止したときには、中水道設備の維持も経費的に難しくなる可能性があるため、しばらくの間は高額な設備改修は見送りたい。